



読書の秋です。

こちらに来てから読んだフィンランドの本の一冊は、トゥーラ・カルヤライネン著「ムーミンの生みの親、トーベ・ヤンソン」。

日本ではアニメ「ムーミン」の作者、童話作家のイメージが強いトーベ・ヤンソンですが、実像は相当に違うことがわかりました。

ヘルシンキ市立美術館（HAM）の売店・書籍コーナーに日本語訳が売っていました。

8月に日本で翻訳復刻版が出版された1931年の小説が「若く逝きしもの」。作者はノーベル文学賞受賞作家のエミール・シランパー。

1880年代から独立直後の1918年までのこの国の様子が描かれています。また美しい夏の描写は、私がこちらに来てから目にして感じたところ、そのままの鮮やかさです。



日本の作家では、ここ数年、多和田葉子さんの作品が好きで読んできましたが、先日、新作「太陽諸島」が出ました。三部作「地球にちりばめられて」「星にほのめかされて」の続編・完結編。

北欧留学中に島国の母国が消えた若い女性 Hiruko が、スカンジナビア共通のパンスカ語をつくり話しつつ仲間たちと（何故か）バルト海を東に航海する。

フィンランド語を含めて外国語の翻訳出版が待たれます。

2022年10月

駐フィンランド大使 藤村和広